

五十嵐元留萌市長が逝去



元留萌市長の五十嵐悦郎(いがらし・えつろう)氏(七一歳)が一月三日午前十時十二分、心不全のため留萌市大町三丁目の自宅で逝去されました。

留萌市出身の五十嵐氏は、旧制留萌中、明治大学を卒業され、昭和二十六年に道庁入りし、留萌支庁総務課などに勤務されました。

昭和四十四年からは留萌市役所に勤務され、企画室長、産業港湾部長、総務部長、助役を務め、昭和五十九年七月に退任されました。

その後、留萌商工会議所専務理事を経て、昭和六十一年の市長選に「市民党」として立候補し初当選され、平成六年までの二期八年間、市長を務められました。



水害の被災状況を自らの足で調査



さわやかな笑顔で場を和ませてくれました



市民との対話をとても大事にしていました

市葬しめやかに 執り行われる

一月十七日午後一時、留萌市文化センターで「留萌市特別功労者・留萌市名誉市民・元留萌市長 故五十嵐悦郎氏留萌市葬」がしめやかに執り行われ、市民ら約四百五十人の参列者が故人の冥福を祈りました。

市葬前に、市特別功労者表彰が喜佐子夫人に伝達された後、市長在職時に市議会で答弁する五十嵐氏の声が録音されたテープが流され、市葬が始まりました。

「常に市民生活の基盤づくりに全力を尽くしてこられました。あなたが留萌に注いできた情熱を私たちの心とし、市政発展に心魂を傾注することを誓います」と長沼市長が追悼の言葉を述べました。参列者一人ひとりが遺影に白菊をささげ、故人に別れを告げました。



五十嵐氏の足跡

都市基盤の整備や地域経済の活性化、教育振興、個性あるまちづくりにご尽力され「市政の主人公は市民」を基本に、市民との対話を大事にされました。温厚で気さくな庶民的市長として市民に親しまれ、職員への信望も厚く、昭和六十三年の集中豪雨禍では、陣頭指揮を取って、まちの復旧に当たられました。開基百二十年、市制施行五十周年の節目となった平成九年、市功労者表彰を受けられました。そして今年一月十一日、市議会において留萌市特別功労者表彰が決定され、名誉市民の称号が贈られました。

主な功績

- 留萌ダムと高規格幹線道路の着工
- CCZ(コースタル・コミュニケーション・ゾーン)整備計画の推進
- 公共下水道事業の促進
- 図書館及び海のふるさと館の建設
- 第三期総合計画の策定